

岡谷市議会 総務委員会 行政視察報告書

【総体事項】

1. 視察日程：平成21年10月6日（火）～9日（金）
2. 調査事項（視察先）
 - (1) 大王谷学園小中一貫教育について（宮崎県日向市）
 - (2) 串間市民病院建設について（宮崎県串間市）
 - (3) 行政に頼らない地域づくり（鹿児島県鹿屋市柳谷地区）
 - (4) 玉龍中高一貫教育校開設事業について（鹿児島県鹿児島市）

3. 視察参加委員

委員長	今井康喜
副委員長	田中肇
委員	鮎澤美知
委員	高林紘一
委員	渡辺太郎
委員	今井秀実

【視察地毎の報告】

1. 調査事項

大王谷学園小中一貫教育について（宮崎県日向市）

（日向市 人口：約64,600人 面積：約336km²）

- ・ 日向市は国の構造改革特区の認定を受け平成18年に小中学校を併置した小中一貫教育校（平岩小中学校）を開校、平成20年には隣接している小中学校を150mの渡り廊下で結ぶ併設型の小中一貫教育校（大王谷学園）を開校し、小中学校の9年間を見通した新しい教育システムを推進している。

2. 視察日時 平成21年10月6日（火）14：00～16：00

3. 参加者所感

- ・ 小中学校の改修計画を取りやめ、代わりに3千万円で小中学校を渡り廊下（学びのかけ橋）で結び、小中一貫教育に取り組むなど、まち全体が教育に対して前向きに一生懸命工夫を凝らしている。特に中一ギャップによる不登校問題が解消されようとしていることには感心した。
- ・ 中一ギャップ解消のために中学校教師が小学校で出前授業を行ったり、小学校での担任が中学一年生の授業に入り生徒の相談に乗るなど、学校教育が抱える課題への対応に意識的に取り組んでいる。さらに、小中学生が合同で行事を開催するなど、小学生のうちから中学生の教師や先輩に親しんでもらうことがこの小中一貫教育校では当然のことのように行われている。
校長先生や3人の教頭先生は社会教育の経験があり、地域交流も積極的に取り組みを進めるなど、教育的見地から進められている小中一貫教育として大変参考となった。
- ・ 教師の多忙感が課題とのことであるが、子どもたちの健全な成長と先生方の職場環境が充実したものになっていけば、むしろうれしい課題ではないか。不登校数の減少に向けこの小中一貫教育は一つのキーワードになり得るとのことです。中学校の不登校数が県下一である岡谷市の教育行政に大いに参考となる施策である。
- ・ 成果はこれからとのことであるが、校長先生以下教職員や市の行政まで教育にかける情熱を感じることができ、何事も“人”だという思いを強くした。学校教育で新しい道を歩み出している点で、すばらしい発想であると実感した。

【視察地毎の報告】

1. 調査事項

串間市民病院建設について（宮崎県串間市）

（串間市 人口：約21,600人 面積：約295km²）

- ・ 串間市民病院は旧病院の老朽化等により、平成17年5月、市の郊外に新築移転した。建設にあたっては、院長の考えで患者にやさしい病院、患者のアメニティー（快適さ）を大切にしたい。現在の病床数120床、常勤医師数12名。

2. 視察日時 平成21年10月7日（水）13：30～15：30

3. 参加者所感

- ・ 廊下、エントランスホールなど患者のためのスペースを広く取り、木材も十分に使い安らぎ感あふれる病院である。各病室にトイレを設置し、洗面台も他の患者さんの目に付きにくい場所に配置され、きれいに使用されている。インターネット利用や携帯電話の使用も可能であり病院とは思えない施設環境であった。

院長先生の病院運営への思い、医師確保の考え方や行動力は岡谷市の病院経営に大いに参考となるものであり、院長先生の思いの根底には医療に対する真摯な思い、患者への思いやりに満ち溢れている。また、看護部長も丁寧に説明いただき職種を超えて病院経営に携わり活躍することは大変重要なことと感じた。

- ・ 院長はじめスタッフが一丸となり良い病院をつくりあげようという熱意のもとに病院経営にあたっている努力は一定の成果をあげており、厳しい環境の中でも患者本位の病院経営を行っていると感じた。

岡谷市の病院建設とは実情が違うが、どのような病院をつくっていくのかという明確なビジョンのもとに院長を先頭に一丸となって病院建設を行い、また、病院経営を行っている点は大変参考となった。

- ・ 病院が新しいことは素晴らしい。そのためには、内部の充実が絶対必要である。医師確保のためにも新しい病院は必要という院長先生の前向きで積極的な態度に感動した。医局は狭いながらもみんなが顔を合わせ話し合えるオープンスペースとなっていたことも印象的であった。

【視察地毎の報告】

1. 調査事項

行政に頼らない地域づくり（鹿児島県鹿屋市柳谷地区）

（鹿屋市 人口：約104,500人 面積：約448km²）

- ・ 柳谷（通称：やねだん）は鹿屋市串良町にある集落で約320人が居住している。土着菌や焼酎を製造販売して自主財源を確保し、余剰金で町内会の全世帯にボーナスを支給するなど行政に頼らない地域づくりを展開。また、空き家を改造して全国から芸術家を地域に招き入れ、文化を語れる地域づくりにも取り組んでいる。

2. 視察日時 平成21年10月8日（木）9：00～11：00

3. 参加者所感

- ・ 中心となって地域づくりを進めるリーダーが必要である。
人々の先頭に立って、率先垂範・創意工夫で物事を進めることができる人。地域を愛し、無欲に、奉仕の心を持つ人。そんなやる気のあるリーダーが地域の人々を巻き込みながらまちを変えていく。
岡谷市でも、区や町内単位など岡谷市を愛し、地域を愛する人から積極的に人材育成を始めることはどうだろうか。
- ・ 地域おこしの最大の活力源は人である。地域でできることは地域で、行政はパートナーでよいとして、焼酎や蕎麦の製造販売による自主財源の捻出が住民に新たな結束を生み、余剰金をお年寄りに貸し出すための手押し車の購入資金に充てるなど、住民の方々から地域福祉の充実のためにとの発想が生みだされる環境には驚くばかりである。「己に感動、社会に貢献」将来に向かってしっかりした計画がなければ実現の道はないとのリーダーの言葉は大変に力強かった。
また、「活動の基本は土台作りである。土台とは円満な和であり、私助の輪でもある。集落民一人ひとりがレギュラーであり、補欠なんて存在しない」という資料の文面からもリーダーの確かな哲学が基本にあると感じられた。
- ・ 休んでいる高齢者、遊休農地、空き民家など、休んでいるもの、空いたものを活用すること、さらに、子どもの出番をつくることが大切との視点は大変重要なものであり、岡谷での各地域の自主的な取り組みを進める上でも大切な視点であると感じた。

【視察地毎の報告】

1. 調査事項

玉龍中高一貫教育校開設事業について（鹿児島県鹿児島市）
（鹿児島市 人口：約605,000人 面積：約547km²）

- ・ 鹿児島市では国の行政改革により公立学校においても中高一貫教育が開始されることを受け、鹿児島市立玉龍高等学校に併設型の中高一貫教育を導入することを決め平成18年4月に開校、今年第一期生が高校に入学した。

2. 視察日時 平成21年10月9日（金）9：30～11：00

3. 参加者所感

- ・ 中高6年間の計画指導で学力の向上、人間性、社会に貢献する人間育成等が期待できる教育体制確立への努力が伺われ、中高一貫教育の目指す「ゆとりある教育指導」「継続性ある教育指導」などの目標達成に向け着実に歩みを進めているようであった。

第一期生が高校に入学したばかりであり、これから成果や課題等いろいろな面から検証されていくものと思うが、中学生と高校生が幅広い交流集団の中で、部活動、生徒会活動など積極的に取り組んでいる様子が印象付けられた。

- ・ 中学校の通学区域を市内全域として、第一期生の中学校入学者120人の内118人が一貫高校に進学するなど生徒の切り捨てもなく、公立校として地域の使命を果たしていることが感じられるが、小学校六年生時に中学選抜に備えての準備をしなければならない訳で、このことについて、生徒や保護者がどのように考えているか、また、小学校での生徒指導についてなど、中高一貫教育の総合的な評価がどのようにされるのか、今後の取り組みに注目したい。
- ・ 伝統校としての誇りを大切にしていることが感じられた。高校受験がないため、中学三年生後半の学力の伸びが今一つと感じられるとのことであるが、反面、子どもが自分自身の考え方や将来の夢を抱く多感な時期に、高校受験に変わって伸び伸びとした学校生活を過ごすことができることは大変有意義なこととも思える。